

# 我が街の記念碑

## 中野サンプラザ

中野区



言わずと知れた中野のシンボル

【中野・宮崎伸治通信員】  
桜並木が続く中野通りと中野駅の交差点にそびえたつ巨大な複合施設は、特殊法人だった雇用促進事業団によって建設されました。正式名称が全国勤労青少年会館だった事はあまり知られていません。広い空とさわやかな喧騒、



### 駅前にそびえて46年 近年はサブカルの発信地

1973年(昭和48年)6月1日開業。鉄骨鉄筋コンクリート造り、大きな三角形の下方に小さい三角形のひししが特徴的。地上20階、地下3階、高さ92m。設計者は林昌二。コンサートホール、結婚式場、宴会場、ホテル、レストラン、ボウリング、プール等、施設運営は当初から黒字という状況。特に収容数2222人のコンサートホールは優良ホール100選に選ばれているほど人気が高く音楽関係者からも支持を得ています。開業当初から大型

ホールとして国内外トップアーティストが公演し、全国からファンを集めています。近年は中型ホールとして声優やアイドルの聖地としてサブカルチャー発信地にもなっています。

公益事業にもかかわらず利益が見込める施設だったため、民間への譲渡が求められ、中野区と地元企業等の設立会社で売却され2004年12月より引き続き運営を開始。その後、中野区の完全子会社となります。

現在中野区は、中野駅周辺各地区の整備と密接に関連していることを考慮し中野サンプラザを建て替える方針を明らかにしています。はたして万物は流転し時節は到来すると捉えつつも、魂をこめて作り上げる建設職人がいるからこそ、中野区の街はこれからも発展し続けるのでしょう。

## 忘れえぬこと

### お客さんも職人さんも 愛された長岡さん



測量 柳堀秀夫

4月6日、長きに渡り墨田支部と立花第一分会の組合活動に貢献された長岡昭彦さんが、78歳で逝去されました。長岡さんとの出会いは、今から約40年前の昭和55年の群会議です。長岡さんは群長を務めていて、建築職人らしい

「水洗トイレはいいね」と私が相談すると、すぐ器具を手配し、取付けてくれました。そして施工した後も、何度か様子を見に来てくれるほど親切で丁寧な職人さんでした。モノづくりの人に教えるのが大好きで、東京土建の組合

活動にも積極的に参加。住宅まわりの木工教室で子どもたちにかなづちや、ノコギリの使い方を優しく教えている姿が印象に残っています。また、住宅ターの包丁研ぎでは壊れていた柄の部分まで直して、来場者に喜ばれるほど熱心に取り組んでいました。

そんな長岡さんが晩年、少し歩くだけでも呼吸が苦しくなり、仕事ができる状態ではありませんでした。詳しく調べると、その原因は、粉じんを吸入することによって肺に生じる病気のじん肺であることがわかりました。

引退し、故郷の山梨県に帰ってからも、毎年住宅ターに参加してくれ、若い役員達に包丁研ぎの指導をしてくれました。長い間ありがとうございました。

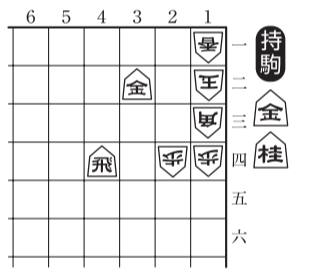
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(墨田)

35億

歌手であり詩人、作曲家や小説家などマルチな才能

で活動を続けるさだまさし。28歳のときには『長江』というドキュメンタリー映画を製作し、初監督で出演も行ない、音楽も担当。総計28億円の借金を背負った。自己破産することもできたが、その決断は怖くてできない「攻め」の選択だった。メンタルの弱さゆえに借金を返し続ける「逃げ」を選んだと言っただけ、30年かけて利子も含めて35億円を見事に完済した。

## 詰将棋



## チヨット一服(992)

川崎市の19人殺傷事件で藤田孝典が「死にたいなら一人で死ぬべき」という非難を控えようと呼びかけたところ反対意見が殺到したことに、江川紹子が藤田の発言を補うとして、絶望感から誰かを道連れに無理心中をはかる「拡大自殺」が起きるとい精神科

医の分析を紹介している。社会からの疎外感に生きる意欲を失って自殺願望が生まれ、社会への復讐心も作用すれば他人を巻き込むことを正当化してしまう。今回のような事件を無くしていくためには、スクールバスの停留所の監視や警備だけでなく、皆が生きがいをもてる社会に行くことが大切なのだろう。



## 監督 中野 量太

厚労省が今月7日に発表した人口動態統計によると、昨年に生まれた子どもの数(出生数)は91万8397人で過去最低を更新。晩産化や結婚をしない人の増加が影響しているらしいが、3年連続で100万人を割った。

一方、離婚したカップルは20万7000組あり、前年に比べて減少してはいるものの、一人親家庭の増加の大きな一因となっている。

中野量太が監督・脚本を手がけた『チチを撮りに』(2013年公開)は、切なくもどこか愉快な母娘3人を描いた家族ドラマ。

当初は自主映画として製作され、公開・配給も未定のままだったが、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2012で国際長編コンペティション部門にてSKIPシティアワードおよび日本人初の監督賞を受賞し、翌年の劇場公開が決定。また、母の



こっそりと昼キヤバでバイトする大学生の薬月と高校生の呼春は、母の佐和と3人暮らし。2人の父は14年前に愛人を作り、重たいテーマになぜかコミカルな感じ。淡々と進む地味なシーンの積み重ねが、母娘のたくましさや温かさを描き出している。

刃真起子は、第55回アジア太平洋映画祭で最優秀助演女優賞を受賞した。姉・葉月を柳英里紗、妹・呼春を松原菜野花が演じている。